

トランジット系外惑星大気の精査に向けた超広帯域・高安定分光器 塩谷圭吾（宇宙研）、藤代尚文（京産大）

系外惑星大気の精査は、これからの天文学の重要な課題である。

主星と惑星を空間分解せず、時間差分によって系外惑星を精査する手法

（ここではトランジット法と呼ぶことにする）は、空間分解によるコロナグラフ法などと並んで、有力な手法である。ここで言うトランジット法の目的は、非常に多くの星をサーベイしてトランジットする系外惑星を発見するミッションとは異なることに注意されたい。観測の安定性は、トランジット法において非常に重要である。広帯域を高効率でカバーすることは、トランジット法による系外惑星の精査で十分な感度を得るために重要である。本講演では、新しい広帯域カバレッジ・高安定性をもつ分光方式およびその開発について発表する。